

## 平成29年度第3回石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議議事録

■日 時 平成29年7月19日（水） 18時～20時50分

■出席者 別紙のとおり

■会議内容

### 1 会議開催について

委員数19名に対して13名が出席しており会議は成立

### 2 開会あいさつ 佐藤副市長

市の財政については、市立病院、魚市場の維持管理費用の補てんなどの負担が大きい。

平成32年度には市の職員数の適正規模を下回る可能性がある。中長期的な観点で自治体を経営する感覚が求められている。まち・ひと・しごと創生総合戦略会議では、効果の高い事業に重点を置き、効果の低い事業については見直しあるいは廃止を検討する必要がある。本日は長時間の会議となるが委員の皆様のご理解の意を願いたい。

---

### 3 議事

#### (1) 協議事項

ア まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価検証について

##### ① 基本目標3について（資料2：各課より説明）

【No.17（空き家等の活用件数）についての補足】

（ICT総合推進室長）

半島沿岸部は全地域で光ケーブルが整っており、場所を選ばずに仕事ができるため、自然と最先端のICTを組み合わせ移住定住につなげていく発想である。そうした場所を探していたところ北上地区に築250年の古民家があり、平成28年度に地域振興課がスマートな地域資源活用創造事業により改修し、平成28年度に限りICTに特化した事業でPRしていくこととした。しかし、空き家改修に時間を要したため29年度の繰越事業となった。そのため現在もICTに特化したPR事業を展開している。

（委員）

今後は別の事業に活用されていくと考えてよろしいか。

（地域振興課長）

平成29年度はICTのモニタ事業に活用する。平成30年度以降は、所有者、市、管理団体と調整し、まちづくりを担う方に使ってもらうなどして地域活性化などにつなげていきたい。

（委員）

地域の方々にあまり情報が伝わっていなかったようなので、今後のビジョン等について情報共有したほうがよい。

【No.34～42について】

(委員)

No.35の地域包括ケアについて、社会福祉協議会では地域コーディネーターなどを設置しているが、雄勝地区などでは、何か活動をしたいがどうすればいいのかわからないといった人がいるので、そうした人をうまく活用してほしい。

また、震災後、河南地区には新たに移転してきた人が多いが、何かをやりたい人が別々に活動している印象を受ける。地域全体で活動できるような場所の確保は難しいと思うが、市ではどのように考えるか。

(包括ケア推進室長補佐)

例として雄勝の話が出たが、社会福祉協議会が震災後に地域福祉コーディネーターを設置し、旧市内6地区と総合支所単位で地域包括支援センターを市内12地区に設置しており、そこに一人ずつ社会福祉協議会の職員を配置している。主にお茶飲み会やサロン活動の取組を支援している。その他にも雄勝では男性の介護塾を実施するなど、活発に活動している。河南地区の活動場所等については、この度、国が高齢者、子ども、障害者も地域で共生していく地域共生社会という考えに基づき、住民の活動場所について行政が積極的に提供していけるよう法改正され、来年4月に施行されることになっている。そうした取組を総合支所や社会福祉協議会と一緒に進めていきたい。

サロン活動は平成26年度で石巻全域でも70件程度だったが、平成28年度で250件程度まで増えた。住民活動も増えており、活動できる場の提供が必要と考えている。

(委員)

私もお茶飲み会の活動を行っている。その他にもいろんな活動をしているが、ボランティアがみな高齢となっている。若い方は働いているのでなかなか会うことができないが、みんなが集まる機会が増えれば次の世代に地域活動をバトンタッチできる。

(包括ケア推進室長補佐)

実際集まっている方が高齢者であり、次につながるような体制づくり、取組を進めていきたい。出前講座も行っているので声をかけてほしい。

(委員)

今の意見に関連して、高齢化の問題もあるがNPOも相当力を入れて取り組んでいる。行政が何でも背負うより、民間の団体をうまく活用し、補助や委託をするのもいいのではないか。団体活動も活発であり、地域全体で見ればこのような低い評価をしなくてもよいのではないか。

次に、No.38のシルバー人材センターについて伺う。一人当たりの平均賃金はいくらか。年金受給の兼ね合いからあまり働けないといった事情はあるのか。

(包括ケア推進室長補佐)

ありがたい御意見である。サロンも含め、各コミュニティについてはNPO、社会福祉協議会や民生委員、町内会長らの尽力で活動が増えてきている状況にある。ハード面の復興事業については少しゴールが見えてきたので、ソフトに力を入れ、民間の活動を行政が後ろから支える形で支援していきたい。

(商工課長)

受注金額全体で2億7,000万円、延べ人数4万3,000人、それにシルバー人材センターの運営費が引かれて本人の元へ渡るが、一日労働や短時間労働もいる。

正確な賃金は把握していないが、年金に影響でるほどの収入はない。シルバー人材センターの目的の一つは生きがいづくりであり、就業というよりは健康年齢の延伸と考えている。

(委員)

私もシルバー人材センターを利用している。センターの実績はそれほど低いわけではないのでC評価はいかなものか。石巻市にとってもセンターの活動は非常に役立っていると思う。今はどの企業も人手不足であり、私の会社も高齢者を雇用している。今後は高齢者とまでは言えない中高年者の人材に目を向けていってはどうか。

包括ケアについては、行政は民間の後押しとなる時期に来ている。先ほど副市長も言っているようにお金の使い方について市が全て主導権を握って評価するよりも、問題を見極めて見直ししながら評価してもいいのでは。全体的には非常にいい状況、流れにはなっていると感じている。

(包括ケア推進室長補佐)

市が先頭に立つのではなく、住民活動が推進されるように努めていければと考えている。

(委員)

No.35の地域包括ケアについて、河北地区に拠点を設置しないのか。

(包括ケア推進室長補佐)

シートには、半島沿岸部の雄勝、北上、牡鹿と人口増加が続いている蛇田地区を記載しているが、地域包括エリアの拠点は市域全体12地区で考えている。

(委員)

No.37の地域包括ケア研修会について、こういった職種が参加しているのか。

(包括ケア推進室長補佐)

医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護師、ケアマネージャーなど、医療・介護分野一堂に集まる。相互理解、相互が講師となりながらワーキングできるような想定で働めている。

(委員)

医師でもいろんな種類がある。NPOなども多職種に含まれると考えるのがいいか。

(包括ケア推進室長補佐)

医療と介護の分野で話をしたが、地域コミュニティ分野での多職種もある。地域包括支援のケアマネージャーや地域福祉コーディネーター、民生委員、NPOなど、一つの課題をいろんな視点で考えることができる、相互理解が図られる研修を考えていきたい。コミュニティを含めて包括ケアが展開できればよいと考えている。

【No.4 3～5 1について】

(委員)

No.4 3の移住コンシェルジュについては多額の経費がかかっているが、これを活用しての実績について詳しく伺う。

また、この事業を通しての実績を追うことはできるが、ボランティアがそのまま移住するようなケースは実績をつかめないと思うがその点についてはどう考えるか。

(委員)

事業費については複数の事業で同じ予算が書かれている。3つの事業を合算した数字をそれぞれ掲載しているようだが、その点も分かりやすく説明してほしい。

(地域振興課長)

移住コンシェルジュは、単体で構成しているのではなく、地域活躍創造事業があって、相談、体験、勉強会(松下村塾)、空き家活用などを合わせて地域活躍創造事業として、ハグクミというコンソーシアムに3,000万円で委託している。

移住コンシェルジュは、ハグクミが京都、東京出身の3名を採用し、移住の相談をしている。この数字については、本気で移住したい方、ちょっと興味ある方、将来的には移住したいといった方を含めている。本格的にはこれからの取組となるが、状況については機会を捉えて報告していきたい。

(委員)

この団体だけが頑張らなければいけないわけではなく、全体で取り組んでいく部分もあると思う。コンシェルジュ自体は一生懸命取り組んでいると思うが、民間の輪ももっと広げていければと思う。

次に、No.4 8の桜坂高校について、学校では工夫した活動をしており、地元に残ってもらう教育もしている。市立高校なのでこのような実績が出たと思うが、定員に満たないのが心配である。進路が決まらないまま卒業したという声も聞いているがいかがか。

(学校教育課長)

私も桜坂高校には何度も足を運んでおり、生徒の雰囲気はよい。現在、桜プロジェクトを実施しており、今日は企業訪問を行っている。県内でもそうした取組を行う女子高は非常に珍しく、今後もこうした取組を生かしていきたい。なお、定員割れは全市的な問題であるが、桜坂高校については平成27年度と比較すると受験者は少し増えている。魅力が少しずつ広まった結果と理解している。

(委員)

石巻市唯一の市立高校なので、もう少しアピールをして盛り上げてほしい。

(委員)

No.48の「市立高校の生徒が本市に住み続けたい割合」について、調査対象が桜坂高校のみになっており、それを石巻市の高校生の総意と捉えていることの正確性を伺う。また、桜坂高校は市内高校生の何%を占めているのか。何を目指した学校で、それを含めて評価しているのか。

(学校教育課長)

市立高校を対象とした評価であり、市内の高校生全体の評価ではない。県立高校での実施は難しい状況であることを理解してほしい。

桜坂高校の良さのアピールについては今後も努力していきたい。連携という点では他の県立高校と取り組んでいる。

(委員)

質問した論点と違う回答なので再度伺いたい。石巻市内全体の高校生の意識はどういう形で把握しようとしているのか。

(復興政策課長)

この件については市全体の課題でもあるということで、復興政策課でアンケート調査を行い、現在集計作業中である。今後もアンケートは毎年実施していきたい。調査結果に基づき、教育部門だけではなく、市全体としてどのような政策が必要なのかを全庁的に検討していきたい。

(委員)

全市的な部分ということで、担当部署を変え、県立高校を含めて調査を行うと理解した。結果等については今後報告してほしい。

(委員)

生活再建支援課に聞くことではないかもしれないが、市外避難者を把握しきれない状況の中で、どのようにして復興住宅の戸数が決定されているのか。

(生活再建支援課長)

生活再建支援課の立場で申し上げると、特定延長の対象者、一律延長から8年目の延長については、特定の事由に該当する方のみが対象となるため調査を行っている。その調査結果を復興住宅課に提供し、戸数決定の参考にしてもらおうという方法で国と調整している。昨年度も自立計画届出書で住まいの再建方法を昨年も調査しており、そうした調査を踏まえて戸数を復興住宅課で検討している。

市外避難者の把握について、全国避難者情報システムの情報は、避難者自らが登録した内

容であり、それらの方は新たな住まいを必要しないケースも多い。被災していないにもかかわらず市外に避難している方も多くいる。住まいを失って避難された方は、他県の市営住宅や、民間賃貸住宅をはみなし仮設扱いとして利用しており、家賃は公費負担されている。そうした情報は宮城県から定期的に提供を受けている。そうしたことから、復興住宅の件数には大きく影響しない。

(委員)

データが取れたので、K P I の見直しも必要になるかと思うがいかがか。

(生活再建支援課)

見直しについては、再建方法により支援も異なり、様々な支援策はしているが、今後更なる支援を検討している。目標の見直しも必要と考える。

---

## ② 基本目標 4 について

【No.5 2～6 1 について】

(委員)

No.6 0 の学校教育について、これは学校が楽しいと感じている児童生徒の割合だが、不登校の割合はどのように推移しているのか。

(学校教育課長)

手元に正確な数字はないが、小中学校ともにここ 2 年で不登校の割合は少し伸びている。原因は現在調査中であり、学校訪問しながら対応を検討している。

(委員)

No.5 8 の放課後児童クラブについて、利用者の増加で待機児童数が増えている。利用している親の立場としては大変助かっているが、ただ受入れを拡大するだけでなく、子どもが育つ場として環境の配慮や指導員のスキルアップなどを考えながら進めてほしい。

(課長補佐)

放課後児童クラブは、平成 2 7 年度の新制度移行後、平成 2 8 年度は 1, 7 0 0 人、平成 2 9 年度は 2, 0 2 4 名と受入人数を大幅に増やし、それに対応した施設整備を行っているが、余裕教室を利用したクラブなどでは、室内の遊びだけでは満足できない子もおり、外遊びなど指導員が様々な工夫しているところもある。限られた環境の中ではあるが様々な取組を考えていきたい。

(委員)

ぜひ外遊びなどが自然にできるような環境にしていきたい。

次に、No.5 7 の保育施設待機児童数について、潜在保育士の掘り起し策では、直接本人に打診する以外に、アプローチの方法などがあれば教えてほしい。

(子ども保育課長補佐)

保育士不足は全国的な問題であり、身近な方で資格を持っている方が多いので、直接声をかけているが、違う職業に就く方が多い。違った角度からのアプローチについては、難しいが検討していきたい。

(委員)

No.58の放課後児童クラブについて、指導員の確保が課題とあるが、市報やハローワークは活用しているのか。

(子ども保育課長補佐)

指導員の確保に向けた取組は行ってきた。

(委員)

この文面では何も対策を取ってこなかったように捉えられるので、書き方を工夫すべきである。皆さんの努力はきちんとアピールした方がいい。

他に転職して戻ってこない方が多いのは全国的な傾向である。やりがいのある仕事であることをPRするようなプロモーションビデオなどはないのか。それでもう一度保育の魅力を出すきっかけになればと思う。多方面のアイデアを検討していくことが大事だと考える。

(委員)

No.58の放課後児童クラブについて、指導員の資格や研修は制度上必要あるのか。

(子ども保育課長補佐)

資格は必要ないが、有資格者か否かで賃金に差をつけている。ただし、研修を受ける必要がある。法改正により、一定の資格や経験を有した指導員の配置人数の基準が定められた。

(委員)

放課後児童クラブは今後も長期的に需要が見込まれる。一方、教員採用試験は倍率が高く採用が難しいので、それらの受け皿となり得るような待遇を市で用意すればいい人材集まるのではないかと。

(子ども保育課長補佐)

児童クラブの指導員の確保は重要な課題なので、あらゆる対応を検討したい。

(委員)

今の意見に関連して、保育所が2か所新設、小規模施設も2か所、それでも待機児童が増えている。少子化でありながら、働く母親が増えている。保育所を4つ増やしたのに待機児童が78人に増えている。これは、少し本気で見直さなければならない。働きたいのに働けない母親がこれだけいるということか。我々も若い方に働いていただきたい。

保育所には定員が定められているが、それは保育士の人員の問題なのか、それともキャパシティの問題なのか。OBの受入れなどを人員確保に使えないのか。

(子ども保育課長補佐)

施設が増えているにもかかわらず待機児童が増えていることについて、市では平成27年度以降、定員を500人増やしたが、申込みも500人増えている。施設を増やしても申込みが増える現象が起きている。国の制度で株式会社の民間保育所の設置が補助対象となったので、今年度は3保育所を更に増やす計画ある。

待機児童のうち、0、1、2歳が60%以上を占めており、低年齢児ほど職員の配置が必要ため、それも保育士不足につながっている。

施設の大きさについて、児童一人当たりの面積が決まっているが、国では定員の120%まで受入可能としている。

放課後児童クラブへの教員OBの活用については、子育てを終えた方がなり手となるケースが多いが、退職された先生にもぜひ指導員としてやっていただきたいという思いはある。多方面に声をかけてはいるが、なかなか難しい状況である。

(委員)

短時間労働も可とするなど、放課後児童クラブも短時間の働き方をもう少しアピールしてはどうか。

(子ども保育課長補佐)

フルタイムだけでなく、パートも採用している。民間保育所でもパートはたくさん採用している。放課後児童クラブは午後1時から6時までの5時間勤務だが、なかなか集まらないのが現状である。

(委員)

定年を迎える先生は決まっている。質問には1年前、半年前からアピールしてはどうかという意味も含まれているのかと思うが。

(学校教育課長)

再任用を希望する教員が大幅に増えているのが現状である。特別支援員など、退職予定者の3分の2くらいは教員としての再任用を希望している。



(委員)

この問題は、No.48の桜坂高校のアンケートとも関連がある。本市に住み続けたいと思う割合の中に「子育て支援」の項目があるように、全てに関連している。更にあの手この手で方策を立ててほしい。この分野は様々な方の願いが込められている。

それでは全体を通して、質問等があれば。

(委員)

No.52～54の男女共同参画事業について、スキルアップ事業は夜に実施することが多いので小さな子どもがいると参加しにくいという声がある。そのための託児サービスなどは無いのか。

(三浦地域協働課長補佐)

今のところそうしたサービスの予定はない。託児を希望する声は聞いているが、保育士も必要になるので実施していない。今後検討していきたい。

(委員)

河南地区で子育て支援サポーターのボランティアやっているが、そうしたところに声をかけてもらえればできると思う。様々なボランティアがあるので活用してほしい。

(委員)

これはNo.52の女性の人材リストの登録者数の関連質問だが、県でも人材リストを作成しているものの10年程更新されていなかった。日々人材は入れ替わるので更新が必要となります。

私から、No.43の移住コンシェルジュについて伺う。3人の実績あるが、追跡調査、住んでみての感想などをフォローアップ調査しているのか。また、コンシェルジュの方が石巻の魅力などをどれくらい知っているのか。その水準を上げていく取組などがあれば。

(地域振興課長)

移住コンシェルジュのスキルアップとしては、全国8自治体で構成するローカルベンチャーで勉強会・情報交換を行うなどしてスキルアップしている。移住情報の提供、衣食住など石巻の魅力を伝えるノウハウを培う取組を進めていきたい。

(委員)

2、3年で帰ってしまうような方もいると思うが、そうした方へのフォローアップはしているのか。

(地域振興課長)

追跡調査としては、移住者3名と交流したり、相談に乗ったり、定期的に連絡を取り合ったりしている。移住してまだ間もないので、ケアしながらコンシェルジュ事業を進めていきたい。

## イ 地方創生加速化交付金・地方創生推進交付金事業の評価検証について

(委員)

DMOは、4月3日に設立した法人であって、平成28年度は準備段階にあり、実体がない中で入込数を290万人と評価するのはいかがなものか。

次に、担い手育成の松下村塾について、どのような募集を行って64名が参加したのか。また、受講の効果等について伺う。

(観光課長)

入込数は毎年押さえているので、様々な取組で今後増やしていくと見込んで最初の目標値を示した。この入込数は石巻市230万人、東松島市40万人で270万人と設定した数字だが、DMOとの関係はない。

DMOの効果により今年以降は入込数を増やしていきたい。

(委員)

数字云々よりも、ここでKPIを評価する必要はなかったと思う。

(観光課長)

立上げ時の評価としてはなじまなかった。

(地域振興課長)

昨年はITを目指す方を特化して塾生を募った。専修大生や仙台方面の方、IT企業目指す方など、将来のIT技術者を対象に地域メディアの戦略セミナー、昨年人気があったポケモンGOの作者の講演などを行った。これが果たして移住定住につながるのかという疑問の声があるのも確かだ。

(委員)

これらの資料を見ると、しっかりと形ができるものは達成できず、人を集めるものは達成できているように映る。今後がんばってほしい。

(委員)

注目されているのでがんばってほしい。

(地域振興課長)

平成29年度はITに特化しているが、30年度は移住定住に繋がるような取組を考えているので近いうちにお示ししたいと考えている。

#### ウ 地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）充当事業の評価検証について

（委員）

K P I の設定で平成 3 2 年度の数字が少ないのは、年度途中から開館されるからという解釈でよろしいか。

（複合文化施設準備室長補佐）

そのとおりです。

（委員）

その他になれば以上で会議を閉じてよろしいか。

---

#### 4 その他

評価検証の提出方法について（説明：大内主事）

---

#### 5 閉会あいさつ

（阿部副会長）

長時間にわたり大変お疲れ様でした。

評価シートの提出が地方創生に役立つことになるので、忘れずに提出してほしい。

# 石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員名簿

(平成29年6月1日現在)

No.	氏 名	所 属	備 考
1	安 住 栄 一	牡鹿地区住民代表	出席
2	阿 部 紀代子	コンパクトシティいしのまき・街なか 創生協議会	副会長 出席
3	阿 部 都	いしのまき農業協同組合	欠席
4	あら 木 裕 美	特定非営利活動法人ベビースマイル 石巻	出席
5	おお 大 浪 茂	河北地区住民代表	出席
6	おの 小野寺 芳 一	七十七銀行石巻支店	欠席
7	き 木 村 美保子	いしのまきNPOセンター	出席
8	ご 後 藤 宗 徳	石巻観光協会	会長 出席
9	さい 西 條 拓 也	いしのまき農業協同組合	欠席
10	さ 佐 藤 清 子	河南地区住民代表	出席
11	さ 佐 藤 尚 美	北上地区住民代表	出席
12	しな の 野 光一郎	宮城県漁業協同組合	欠席
13	しょう 庄 子 真 岐	石巻専修大学	欠席
14	はた やま 実	日本労働組合総連合会宮城県連合会 石巻地域協議会	出席
15	たか はし 真由美	雄勝地区住民代表	欠席
16	なか がわ 尚 仙	石巻商工会議所	出席
17	なが さわ 貞 代	桃生地区住民代表	出席
18	は が 賀 信 幸	石巻市地域包括ケア推進協議会	出席
19	み 三 浦 と 基 恵	石巻市地域婦人団体連絡協議会	出席

(氏名の五十音順、敬称略)